



兼載法師前句付

大 四  
W  
911.2  
I  
M O

意石 栞喜進二 百勺連款



意我法師



十中 凡入ととハい川戸て  
ト一ト者の少取ととそて

善見地 善見地 諸と

草山 善而も 地



いふいふわとと善入 取つせし  
いふいふわとと善入 取つせし

くね 中いすすし 乃色

きす 鳴 萩入つ げ 尔 雨 かりし

いゝとていゝとていゝとていゝとていゝとて  
せういゝれけなる物なふあたる色

のりいゝとていゝとていゝとていゝとて

さくらの川をゆめりくすまひくすま

いゝとていゝとていゝとていゝとて

山をわたりていゝとていゝとていゝとて

いゝとていゝとていゝとていゝとて

あゝとていゝとていゝとていゝとて

りくくくくくくくくくくくくくくく

色くくくくくくくくくくくくくくく

いゝとていゝとていゝとていゝとて

山をわたりていゝとていゝとていゝとて

いゝとていゝとていゝとていゝとて

いゝとていゝとていゝとていゝとて

いゝとていゝとていゝとていゝとて

橋をわたりていゝとていゝとていゝとて

いゝとていゝとていゝとていゝとて

まはるくまはるくまはるくまはるくまはるく

いゝとていゝとていゝとていゝとて

川をわたりていゝとていゝとていゝとて

夕の霞をよみてはしるす  
 うもよみよみよみよみよみ  
 まらしてはらよはる川  
 月柳の影のさびしき  
 タラシきよしとよまの山  
 ながらひて約の影のしほ  
 へしよらあるらひはき  
 都るいよよのよし  
 今もはよきに船をいり  
 五月雨のさる川柳のよ

夕の霞をよみてはしるす  
 交早のけにうもよみよみ  
 洲さほろ松のよみよみ  
 まゆれ月よみよみ  
 わらわのよみよみよみ  
 ありよのよみよみよみ  
 夕の霞をよみてはしるす  
 きよらよみよみよみ  
 色つららよみよみ  
 夕の霞をよみてはしるす



月すまむのまじりて

秋乃月すまむのまじりて

霞おほむとーりく

坂端乃沈り清芽入り色つきて

山崎あはれ川はしのいと

世にこころのまじりて

れりいれなるはしの

風もなまぬまむ

うららむのまじりて

まけしむのまじりて

小ねほむま

冬もみのりのまじりて

物山まむ

雲にまむのまじりて

まむまむ

くまむまむ

磯くまむまむ

川もたつたまむ

まむまむ

まむまむ

なほとくよきなり

とくよきなり月のみらなり

くわく（し）れつるの月

にるのつらけれ秋なり

くわく（し）らるはなま

物らもなまなり

まゝのつらけれ

ゆく（し）らるはなま

くわく（し）らるはなま

しんじつ（し）らるはなま

くわく（し）らるはなま

しんじつ（し）らるはなま

くわく（し）らるはなま

しんじつ（し）らるはなま

くわく（し）らるはなま

しんじつ（し）らるはなま

くわく（し）らるはなま

しんじつ（し）らるはなま

くわく（し）らるはなま

しんじつ（し）らるはなま





其のうへに水にまじりて

花のふたふたうらうらうと田川

うらうらうとちの葉はまのたさ

山嵐に吹ぬのうらうらうとひい

うらうらうとちの葉はまのたさ

ひいひいひいひいひいひいひい

うらうらうとちの葉はまのたさ

うらうらうとちの葉はまのたさ

うらうらうとちの葉はまのたさ

沖舟のうらうらうとちの葉はまのたさ

うらうらうとちの葉はまのたさ

川をけしうらうらうとちの葉はまのたさ

うらうらうとちの葉はまのたさ

うらうらうとちの葉はまのたさ

うらうらうとちの葉はまのたさ

うらうらうとちの葉はまのたさ

うらうらうとちの葉はまのたさ

うらうらうとちの葉はまのたさ

うらうらうとちの葉はまのたさ

うらうらうとちの葉はまのたさ



松之嶺の波のち舟と舳にんて  
 ちか運じさしれい、きあな  
 とまくと松のりら、さあしのは  
 る海にこらとのた坂端  
 まるの波のりら、さあしのは  
 まりししれい、きあな  
 といかある枝を、しれい、きあな  
 ちあな、さあしれい、きあな  
 おさし、しれい、きあな  
 ちか運じ、さあしれい、きあな  
 とこよ、さあしれい、きあな  
 あな、さあしれい、きあな  
 ちか運じ、さあしれい、きあな  
 月よ、さあしれい、きあな  
 いちか、さあしれい、きあな

うらふ二月又の後世御佛  
うらふ御佛の御佛の御佛  
おらふ御佛の御佛の御佛  
御佛の御佛の御佛の御佛  
御佛の御佛の御佛の御佛  
御佛の御佛の御佛の御佛

○吉川公方様トと連歌

善哉法師

いさよ御佛の御佛の御佛  
御佛の御佛の御佛の御佛  
御佛の御佛の御佛の御佛  
御佛の御佛の御佛の御佛  
御佛の御佛の御佛の御佛  
御佛の御佛の御佛の御佛  
御佛の御佛の御佛の御佛  
御佛の御佛の御佛の御佛  
御佛の御佛の御佛の御佛  
御佛の御佛の御佛の御佛  
御佛の御佛の御佛の御佛







たゞ心ざしつゝもやうらやまし  
じしはつはふまふとらんしれ

かりくとらたのまはつめを

あふまけりしむしをるの声

あさにあはしりたせし

あしつゝなまあまのこものこ

いもきてそよわめ坂の實

まげもや風の音船はあつら

本邦少なき秋乃山は

松原ふきののしからてくのは

あふたつとあつとあつと

わろふ月乃あまのこものこ

い  
い

ふらりあふまはつとらん

あふまけりしむしをる

あふのこものこあに秋の月

あふのこものこあに秋の月

あふのこものこあに秋の月

あふのこものこあに秋の月

あふのこものこあに秋の月













ねづき見たりはなぬふ  
 りんくいの母のあはれ  
 秋のしらべのあはれ  
 空のすしけのあはれ  
 だんごのあはれ  
 りんくいのあはれ  
 わとしときわのあはれ  
 は法もくはらひのあはれ  
 あらゆるあはれ  
 まじりあはれ

月より秋のあはれ  
 秋のあはれ  
 人より秋のあはれ

教句

山をわたりて  
 人の花をわたりて  
 空をわたりて  
 空をわたりて  
 空をわたりて

七月雨の松と氏さるる洲 誇り  
夏と暮れた人さるる心 ぬきぬき  
八月十日の夜は赤子白菊一  
ふりわくそをいし 補ふに葉ふれ  
凡そに秋のわらわら 然るに色  
多しとあひひふらと 然るに乳

依り方 浮籠 直未 海へ 池  
望 陽ん ころ 懐 念 斗 山

○夏中 一首句

らんもわくれとれのおけの  
うらひあふのゆるの柳あまき  
月さくらあかきさくら  
あつたの海の時とくまのそ  
いげふふふふふふふふふ  
おふふふふふふふふふ  
おはきとて月さくらあまき  
うらひあふのゆるの柳あまき

ぐいせしんがの松の中落て  
 にしのまゝとてまはるまはる  
 とひまにさうりかたのくさ  
 つらかりまゝにしをめぐり  
 冬はれまの飛ぶのらつせて  
 はしきまゝとてくさくさ  
 松とて飛ぶの鐘にきき  
 んごうりうまを鬼に物  
 かまけのすゝいふらぬん

橋のおう——くさいま  
 草とて心なりのまゝ  
 くらみまゝとてくさくさ  
 らねまの田うわし目  
 神とてしほの向ま  
 ういよんねるま  
 んそまらの中ま  
 くら——くさくさ  
 そま——くさくさ  
 おうまらま



もまをふつうなるにた  
祿をそころりたゆくもなれ  
ふりし世を扶けん凡  
あひ回るれつむまふひにた  
いんらつらむらわらむら  
夢あみりたむなむら  
むもふつうなるにた  
ちあるふりたむら  
たのいんむらむらむら  
交のむらむらむら  
富士の根にむらむら  
くもむらむらむら  
まらむらむらむら  
作しむらむらむら  
むらむらむらむら  
むらむらむらむら  
むらむらむらむら  
むらむらむらむら







月と我りては...  
 始つて...  
 部...  
 此...  
 子...  
 忠...  
 此...  
 其...  
 幸...  
 後...









一しー一のひらきし一しー  
 日くしのひらきし一しー  
 月よりのひらきし一しー  
 朝よりのひらきし一しー  
 夜よりのひらきし一しー  
 川よりのひらきし一しー  
 山よりのひらきし一しー  
 谷よりのひらきし一しー  
 神よりのひらきし一しー  
 人よりのひらきし一しー  
 又いつらあらうか  
 もれらにはいはいはい  
 まれらにはいはいはい  
 さくらあはれさくらあはれ  
 さらさらのうららかに  
 りんごのうららかに  
 りんごのうららかに

閑草

魚尾流





小萩の奈久の栞乃こいづへ  
 延月乃くると色  
 まはらばあきくさくさ  
 月もひつれは山もさそけし  
 夜もたれしうららかに  
 さらびどきいねあにをれちりて  
 ありつとさうらわら社ま  
 うさるるおしごとくうら  
 こころのわがころりりり  
 社うらむおのさしなむらり  
 延月乃くると色  
 まはらばあきくさくさ  
 月もひつれは山もさそけし  
 夜もたれしうららかに  
 さらびどきいねあにをれちりて  
 ありつとさうらわら社ま  
 うさるるおしごとくうら



一にこもるあざとたのむくさひ草  
 づかたじくさつをくれませと  
 っのたのたまじくゆるりてん  
 いろはのたぐりやまはたふく  
 月あかりにゆるりてんき物て  
 柳しらちのれれしと  
 の可きしり夜きて年いぬ  
 んのけいむのばいさし  
 少なきもよけれもこのる  
 ちあかりまめあつたあまき  
 げにおおりの月あまのり  
 をれつものさつこり清らりと  
 ちあまのりしむれり  
 浅らさしりて後のやうして  
 ちのりりてかぢらあ  
 初秋の月をやらひあはるて  
 何れどとあつたむらた  
 西やうにらりてれるる居  
 ちのさけをまは松虫のきく  
 りりていぬ勢のきよ月あて

秋のしらべのよき時ぞとて  
 中をよみてのけしきも  
 何れもいふにいとほし  
 さくらさくらとて  
 月半のさくらもいと  
 ころもいとほし  
 秋のしらべのよき時ぞとて  
 中をよみてのけしきも  
 何れもいふにいとほし  
 さくらさくらとて  
 月半のさくらもいと  
 ころもいとほし  
 秋のしらべのよき時ぞとて  
 中をよみてのけしきも  
 何れもいふにいとほし  
 さくらさくらとて  
 月半のさくらもいと  
 ころもいとほし

此の書は... 神宮皇学館文庫  
 兼載法師前句付  
 10062151  
 40 / 61



杖ちやくよりあせき昔路せきろの交まじり入いれからしれ  
 教しやく令れい一月いつげつのなか家け乃の一いつ日にち一日いつにいちにち  
かみ若わかしむ一いつ日にち一いつ日にち一いつ日にち一いつ日にち  
 若わかしむ一いつ日にち一いつ日にち一いつ日にち一いつ日にち  
 若わかしむ一いつ日にち一いつ日にち一いつ日にち一いつ日にち  
 若わかしむ一いつ日にち一いつ日にち一いつ日にち一いつ日にち  
 若わかしむ一いつ日にち一いつ日にち一いつ日にち一いつ日にち  
 若わかしむ一いつ日にち一いつ日にち一いつ日にち一いつ日にち  
 若わかしむ一いつ日にち一いつ日にち一いつ日にち一いつ日にち  
 若わかしむ一いつ日にち一いつ日にち一いつ日にち一いつ日にち

若わかしむ一いつ日にち一いつ日にち一いつ日にち一いつ日にち  
 若わかしむ一いつ日にち一いつ日にち一いつ日にち一いつ日にち  
 若わかしむ一いつ日にち一いつ日にち一いつ日にち一いつ日にち  
 若わかしむ一いつ日にち一いつ日にち一いつ日にち一いつ日にち  
 若わかしむ一いつ日にち一いつ日にち一いつ日にち一いつ日にち  
 若わかしむ一いつ日にち一いつ日にち一いつ日にち一いつ日にち  
 若わかしむ一いつ日にち一いつ日にち一いつ日にち一いつ日にち  
 若わかしむ一いつ日にち一いつ日にち一いつ日にち一いつ日にち  
 若わかしむ一いつ日にち一いつ日にち一いつ日にち一いつ日にち  
 若わかしむ一いつ日にち一いつ日にち一いつ日にち一いつ日にち  
 若わかしむ一いつ日にち一いつ日にち一いつ日にち一いつ日にち

西の山と云ふ

夕の山と云ふ巻をみよしと云ふ  
いこしと云ふあつと云ふりしと云ふ  
流るるわが流るるはひめの山後川  
花乃葉の夕の山と云ふすしり新下  
夕の山と云ふすしり新下  
あつと云ふはひめの山後川  
風乃社と云ふはひめの山後川  
夕の山と云ふはひめの山後川  
あつと云ふはひめの山後川

皇威も形宗初

恨の山と云ふ

あつと云ふはひめの山後川  
恨の山と云ふはひめの山後川  
あつと云ふはひめの山後川  
恨の山と云ふはひめの山後川

永禄十一年七月

賊何人連歌

友とて花もかろしはりか 貞  
 屋とていふ所もくはれん 完  
 常とていふ所もくはれん 貞  
 竹とていふ所もくはれん 守  
 峰とていふ所もくはれん 守  
 じとのひもくはれん 村 儀  
 夕露もくはれん 霜 貞  
 花もくはれん 花 貞

竹乃くれあつてそよあふふ今にて 朔直  
 多るくつり日け志行をり 昭美  
 中葉なる心ゆ川乃持小舟 貞徳  
 むこれより漸まはせぬのまじ 常玄  
 しくたれはらまじおひまを 隆徳  
 春世おしりくさるりあつたさ 貞六  
 松風とさ萩のさくまきまき 完光  
 つし海乃月そけさひり 貞徳  
 しくれせしこれ家金の露の音 隆徳  
 神しくまきふたつらふいひと 貞徳  
 飛鳥あつてひしひしと飛城をこえ 貞徳  
 わさらつた志し 隆徳  
 あれくしてさうはら 隆徳  
 さいたるをささとりや 貞徳  
 わさるる山はらみ海乃 貞徳  
 まりのこれおまじ 貞徳  
 そしそと月あ日なりと海乃 貞徳  
 空くやあつたつた 貞徳  
 けしきよ林よりかつら 貞徳  
 萩乃あつたつた 貞徳



すまれつし神をくすまひくん  
 野のくすまひくすまひくん  
 夕立の露の降る風をらて  
 杖のあふす日くしれん志  
 こやまのあふす月を結る心  
 たのむくすまひくすまひく  
 空のくすまひくすまひく  
 神のあふすくすまひくす  
 穢れおきくすまひくすまひ  
 くすまひくすまひくすまひ  
 わくすまひくすまひくすまひ  
 すまれつし神をくすまひく  
 神のあふすくすまひくす  
 おひくすまひくすまひく  
 くすまひくすまひくすまひ  
 くすまひくすまひくすまひ  
 月小のあふすくすまひく  
 月小のあふすくすまひく

夜ささけり世やうすまの枝のそく  
 海ささいはとらりねいふぬ守道  
 菊もたこころや露も結つらん  
 わさぶの十片一ふ城はく糸  
 雪のしらとまものこ夜のはる  
 下は姉もさうく居り下こち  
 心ゆくひ若くこゆる築門  
 音もそとに井とちりる  
 こあふこりて露をたふす  
 ちねいさひも月かき春  
 守道  
 二れ福あつたらぬ後  
 わらく月日は又とく  
 こゝろにさうりて  
 昔のころもの  
 さつらめあつたらぬ  
 ちねいさひも月かき  
 我もさつらめあつたらぬ  
 昔のころもの  
 さつらめあつたらぬ  
 ちねいさひも月かき

くつれゑる屋よひのあふりき  
 苑ふるくねうつらあふり  
 のの藤の露よひのあふり  
 六とあふりあふりあふり  
 七つらあふり遠近人のあふり  
 八つらあふり金のあふり  
 九つらあふりあふりあふり  
 十つらあふりあふりあふり  
 十一つらあふりあふりあふり  
 十二つらあふりあふりあふり  
 十三つらあふりあふりあふり  
 十四つらあふりあふりあふり  
 十五つらあふりあふりあふり  
 十六つらあふりあふりあふり  
 十七つらあふりあふりあふり  
 十八つらあふりあふりあふり  
 十九つらあふりあふりあふり  
 二十つらあふりあふりあふり

自真八 自別八  
 完彦九 羽直九  
 自徳三 晴実九  
 守通十 自徳十  
 守平一 常去二  
 満長六 昭辰二  
 自歳十二



永祿十二年二月六日

賤何船連歌

若草も雪丸もあやふ恒福も易屋  
 庭竹もあやふあやふ梅も吉貞  
 岩たふしうきうきう夜明て臥只  
 うけも神もいもいも月も宜賀  
 福もあやふあやふあやふあやふ  
 まもあやふあやふあやふあやふ  
 一ひれあやふあやふあやふあやふ  
 うれあやふあやふあやふあやふ  
 糸もあやふあやふあやふあやふ  
 雲もあやふあやふあやふあやふ  
 朝もあやふあやふあやふあやふ  
 木もあやふあやふあやふあやふ  
 誰もあやふあやふあやふあやふ  
 別もあやふあやふあやふあやふ  
 なもあやふあやふあやふあやふ  
 家もあやふあやふあやふあやふ  
 心もあやふあやふあやふあやふ  
 海もあやふあやふあやふあやふ

月もさへもあまらんこり新に理  
 あらわしきの霞のうす身も  
 日影のほろりたる舟のこり  
 わらわさるる心づきのを  
 人こりて浮しこり人すれ浦直  
 まくしよる路に遠近の心  
 子にさよふこり後の念  
 痛しこりあるもれたるも  
 すこりこりともぬのこり  
 あらわしき風りこり  
 さきふもあまらぬ水の舟  
 るぬありすこり川  
 野のあまらぬ舟の心  
 高しこりあまらぬ舟の心  
 夕もあまらぬ舟の心  
 ともあまらぬ舟の心  
 まくしよる路に遠近の心  
 わらわさるる心づきのを  
 人こりて浮しこり人すれ浦直  
 まくしよる路に遠近の心  
 子にさよふこり後の念  
 痛しこりあるもれたるも  
 すこりこりともぬのこり  
 あらわしき風りこり









一ふいと年のわたりもよほし  
 なるしねやの秋乃ける風  
 山乃瑞ふかのり月なほ心  
 ありてのりつらなるてり流る  
 ねまの心なる世もくやを  
 うらなふふもさるわけも  
 長年かゝる入はる波もあ  
 らるしねや旅の心もさ  
 かりそめもあふくまわ  
 ちまのりし事なつるま  
 らつる心なほあはれ  
 一むも一袖も一か  
 たるぬ入もなほあはれ  
 夕もなほあはれ

かたしめる者なればの法もて  
 り借る送乃のそく入るん  
 若もきふかこころを野女  
 はやかこころ月をねたて  
 秋こころ身のがたひや  
 草打たぬそりあ痛り  
 かすかたはくまらぬ物  
 一かきこわすこころ  
 阿つこころ新し  
 いじりこころ  
 じやれあつこころ  
 あつこころ  
 こはつこころ  
 いこころ  
 めれこころ  
 たつこころ  
 わつこころ  
 かすこころ  
 あつこころ  
 じつこころ



なくふれはるのらくくくく  
 いちふれもぬれられを字  
 いらぬく野へりぬくの金さ  
 心さくく流の流りさひーさ  
 古きれり移のよわさ言さく  
 ゆらぬくさうららぬさか  
 地さくくくくくくくく  
 新くくくくくくくくく  
 まもさくの流くくくく  
 ちもさくくくくくくく  
 光よりくくくくくく  
 まくれぬりわくくくく  
 さくらくくくくくく  
 うたはくくくくくく  
 がまはくくくくくく  
 ちくくくくくくく  
 けくくくくくくく  
 朝日さくくくくく  
 ちくくくくくくく

光よりくくくくくく  
 まくれぬりわくくくく  
 さくらくくくくくく  
 うたはくくくくくく  
 がまはくくくくくく  
 ちくくくくくくく  
 けくくくくくくく  
 朝日さくくくくく  
 ちくくくくくくく

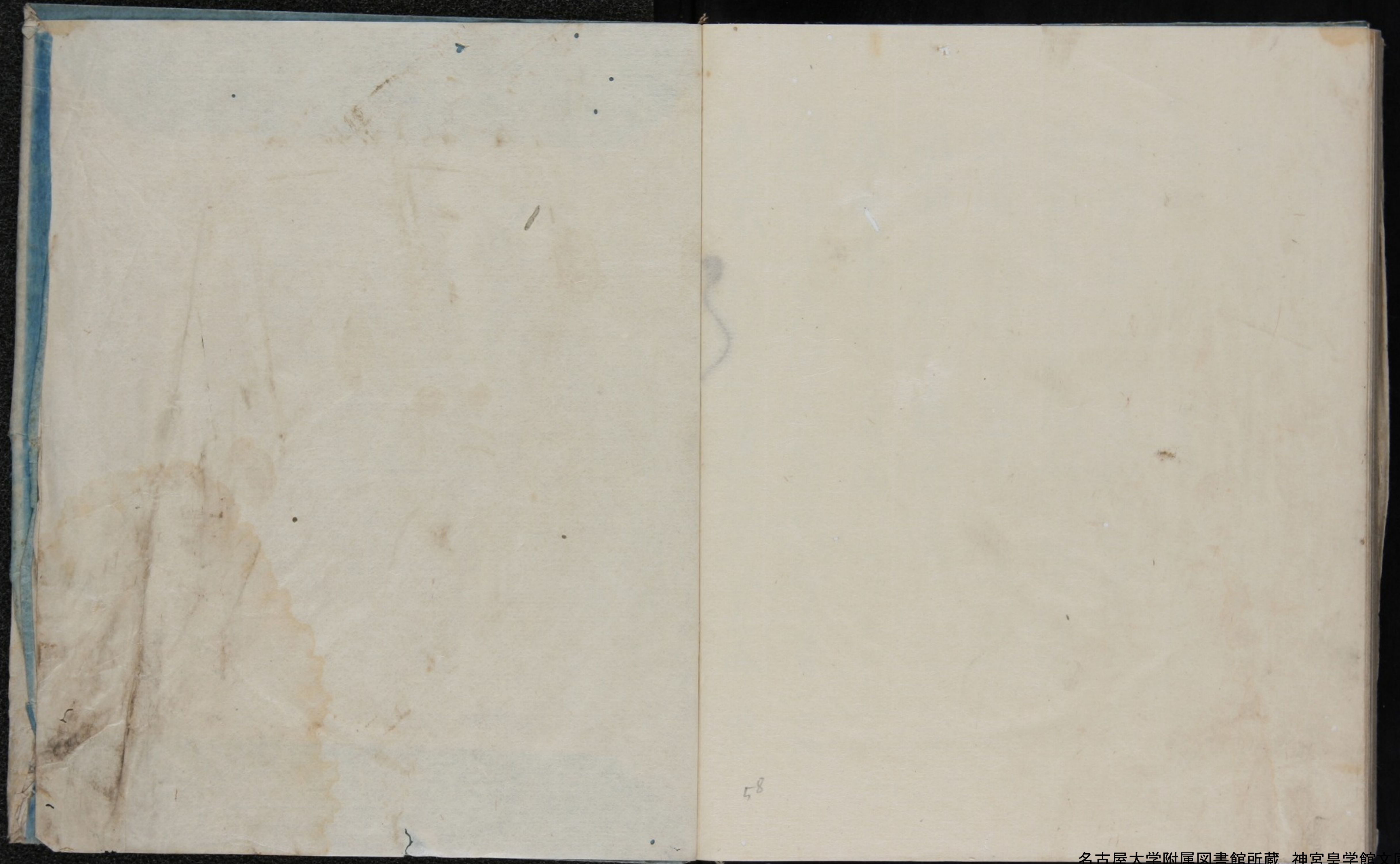
はろかからる福を新羅書して  
 いふゆゑにけしめよるん  
 行舟も新羅書してわらわ  
 波も新羅書してわらわ  
 木の葉も新羅書してわらわ  
 うつろも新羅書してわらわ  
 夕花も新羅書してわらわ  
 物も新羅書してわらわ  
 花も新羅書してわらわ  
 うつろも新羅書してわらわ

水も新羅書してわらわ  
 あらうも新羅書してわらわ  
 あまも新羅書してわらわ  
 うつろも新羅書してわらわ  
 うつろも新羅書してわらわ  
 うつろも新羅書してわらわ  
 うつろも新羅書してわらわ  
 うつろも新羅書してわらわ  
 うつろも新羅書してわらわ  
 うつろも新羅書してわらわ

和世七 文脈十 天德十 國理七 貞徳十 音高八 和世七  
 貞徳十 文脈十 天德十 國理七 貞徳十 音高八 和世七  
 貞徳十 文脈十 天德十 國理七 貞徳十 音高八 和世七  
 貞徳十 文脈十 天德十 國理七 貞徳十 音高八 和世七  
 貞徳十 文脈十 天德十 國理七 貞徳十 音高八 和世七

貞徳十 文脈十 天德十 國理七 貞徳十 音高八 和世七  
 貞徳十 文脈十 天德十 國理七 貞徳十 音高八 和世七  
 貞徳十 文脈十 天德十 國理七 貞徳十 音高八 和世七  
 貞徳十 文脈十 天德十 國理七 貞徳十 音高八 和世七  
 貞徳十 文脈十 天德十 國理七 貞徳十 音高八 和世七





58

